

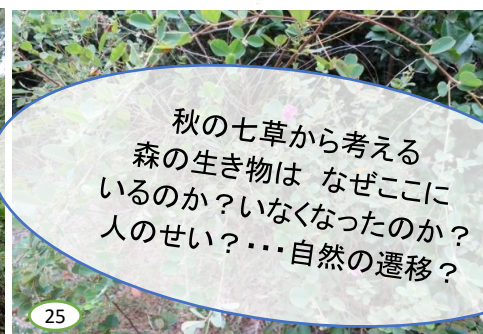
～ 木の実の変化 見つける 秋の風 ～

私だけの
お気に入りの
見つけよう
Oriさんの?!教室



果実についてのいろいろ=植物の戦略

- 種子の入れ物 ○種子の保護
- 種子散布の工夫...種はどうやって散らばるか
 - ①風 ②水 ③重力 ④自動
 - ⑤動物...食べさせる・貯食・ひつつく・えさを与える
- ☆森は鳥によってつくられる
- 食べられないための工夫 ①適期 ②対象
- 果実の色と形の理由



秋の七草から考える
森の生き物はなぜここに
いるのか?いなくなったのか?
人のせい?...自然の遷移?



相生山緑地北部の地図 今日のコース



No	標準和名	漢字表記	ポイント	メモ
1	アレチヌスビトハギ	荒地盗人萩	花	
2	ヌルデ	白膠木	花	雌雄異株
3	イボタキ	水蠟樹	果実	
4	ネズミモチ	鼠竊	果実	
5	サザンカ	山茶花	花芽	晩秋開花 逸出?
6	アオハダ	青肌	果実	
7	クサギ	臭木	果実	萼片
8	ガマズミ	莢迷	果実	コハガマ,ミヤマガマ
9	スダジイ(?)	すだ椎	シュート	クワイマックスフォレスト
10	スズメバチ	雀蜂		危険回避
11	エゴノキ	えごの木	果実	完熟落果
12	ヒサカキ	姫榊	果実	
13	耕作放棄地			先駆植生 外来種
14	コナラ	小櫨	果実	ハイロチョッキリ
15	カマツカ	鎌柄	果実	
16	栗畑			窃盗被害
17	ノブドウ	野葡萄	果実	食べられません
18	アベマキ	楡	果実	受粉後2年
19	ジャシヤンボ	小小坊	果実	晩秋完熟
20	ウスノキ	白の木		果実見当たらず
21	ウメトキ	梅擬	果実	不味い モチノキ科
22	ヤマハゼ	山樗	紅葉	かぶれ注意
23	ヤマウルシ	山漆	紅葉	かぶれ注意
24	ススキ	薄	花	秋の七草
25	ヤマハキ・マルハハキ	萩(山・丸葉)	花	秋の七草
26	ズミ	酢実	果実	
27	イソノキ	磯の木	果実	イロイロ
28	キンズヒキ	金水引	花	
29	タカノツメ	鷹の爪	果実	雌雄異株
30	クズ	葛	花	秋の七草

次回ご案内
10月9日(日) 9:30~
森の秋を たしかめよう
さわったり ひろったり
かじったり 考えたり

連絡先(古川)
tel/fax: 052-821-6463
ケイタイ: 080-5124-6463
e-mail: viva_forest@yahoo.co.jp
ホームページ: ラブリーアース → 検索
相生山の最新情報は
ブログ:相生山からのメッセージ
応援よろしくお祈りします

森のひとり言

北岡明彦

その六拾五 : 秋の七草 (その1) ナデシコ

「秋の七草」の起源は、今から1200年以上も前の奈良時代に逆上ることが出来ます。

万葉集 巻8 山上臣憶良 秋野の花を詠む歌二首

1537 秋の野に 咲たる花を 指(および)折り
かき数ふれば 七種(くさ)の花

1538 萩の花 尾花 葛花 なでしこの花
をみなえし また 藤袴 朝顔が花

自然と人との関わりや、その中での自然を詠んだ歌が多い、憶良らしいほのぼのとした和歌です。

7種類の植物のうち、朝顔については「桔梗」とする説が有力です。一方、藤袴は、現在ではほとんど河川敷でしか見られない非常に珍しい種類で、庭など身近な所で見るとフジバカマは中国産の園芸種です。他の6種類との生育頻度のバランスから推測すると、私は現在のヒョドリバナも含んでいるのではないかと考えています。

憶良が選んだ7種類は、クズを少し横に置いておくと、いかにも初秋の風が吹く高原の雰囲気が出ています。二首を続けて声に出して詠んでみると、何となく涼しい感じがします。

このうち、今一番注目を浴びているのが、ナデシコでしょう。ワールドカップ、オリンピックと続けて大活躍した女子サッカー日本代表の愛称が、御存知「ナデシコ・ジャパン」です。

本家ナデシコは中山間地における草刈り場の減少や草原の森林化によって減少傾向にあります。ナデシコ・ジャパンの活躍とともに野生のカワラナデシコが復活することを期待しています。



カワラナデシコ

その六拾六 : 秋の七草 (その2) キキョウ

秋の七草のうち、ナデシコ以上に著しく減少しているのがキキョウです。

古くより薬草として重用したり、明智光秀の家紋に使われたり、身近な存在であったキキョウですが、今ではレッドデータブックの記載種になってしまいました。

もともと、中山間地と呼ばれている山村地域に多い土手の草刈場に生育する植物で、標高200~1,000m程度の地域で見られます。草が森林化するとすぐに姿を消してしまいますが、再び草刈りを定期的に行うと、割と早期に復活します。こうした性格は、同じ秋の七草として詠まれているオミナエシと全く同じです。

それもそのはずで、キキョウ科やオミナエシ科に属する植物の祖先の多くは、その昔、日本と大陸が陸続きだった頃、中国や朝鮮半島を経由して日本に渡来した種類だからです。キク科やスミレ科、フウロソウ科などにも同系の植物がかなり含まれます。多くは草地性の植物で、満州などの広大な草原が故郷である植物たちです。

豊田市の足助地区や下山地区には比較的生育地が多く残っていて、車を走らせていると、時々キキョウの美しい紫花が見つかり、思わず「アッ、キキョウが咲いている！」と叫んでしまいます。

でも、花のピークは8月中~下旬で、実はキキョウは晩夏を代表する植物です。ナデシコもまた晩夏にピークを迎え、中秋(陰暦の8月15日)の頃には、この2種類は完全に盛りを越えています。

本当は秋の七草が同じ場所で同時に咲くことは、滅多にありません。



キキョウ